

婦人関係資料シリーズ
参考資料 No. 59

労働者の妻の生活

(モデル地区における主婦の現状)

労働省婦人少年局

埼玉婦人少年室

20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532
 533
 534
 535
 536
 537
 538
 539
 540
 541

12
23

四
三
二
一

昭和34年7月

为的看 读入 少年局

I 調査の概要

1. 調査の目的	6
2. 調査の対象	6
3. 調査の方法	6
4. 調査事項	11
(1) 世帯について	11
(2) 主婦の生活と意識について	11
5. 調査の時期	11

II 調査の結果

1. 対象世帯の概況	13
(1) 主婦の年令	13

(2) 主婦の学歴	13
(3) 主婦の現金収入	14
(4) 夫の職種及び月収	17
(5) 家族構成及び世帯人員	20
2. 家計管理の状況	22
(1) 生活費の計画	22
(2) 生活費の計画をたてる者	25
(3) 家計簿	27
4. 家計簿の記入状況	27
B. 家計簿の記入方法	27
3. 生活改善	31
(1) 生活技術修得の機会	31
(2) 生活合理化のための器具の所有状況	34
4. 団体への加入状況	38

5. 主婦自身の成長のための時間

- (1) 主婦の欲求 42
- (2) 主婦の成長のための時間の有無と内容 42
- (3) もてない理由 45
- 6. 主婦の読書傾向 45
 - (1) 読書 46
 - (2) 読書の種類 48
 - (3) 読書以外の書籍 51
 - (4) 書籍の種類 54
- 7. 社会の配置についての意見 54
 - (1) 仕事関係、職場関係および収入 54
 - (2) 同じ仕事場の人は階級上か下かい 56
- 8. 主婦の手付け 58
 - (1) 主婦が読書の際の家事担当者 58

- (2) 家事手伝人の日当 61
- (3) 家事手伝人の勤務形態 64

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、婦人少年局が労働者家族福祉対策の一環として婦人少年室を通じて既に生活技術指導を行っている労働者家庭生活向上のための生活技術指導計画を推進するためのモデル地区における労働者家庭生活向上のための生活技術指導計画を推進するための参考とする目的で行ったものである。

2. 調査の対象

婦人少年室を通じて選定した全国のモデル地区（以下事業所の社宅及び所管住宅ノササ）の主婦（以下主婦）を調査対象とした。（以下表）

3. 調査の方法

前記対象者（以下主婦）に質問表を配布し、各自が氏名にて記入する方法をとった。回収された質問表は（以下表）で、このうち有効票は（以下表）票であった。（以下表）

表1 都道府県別対象者数

県名	事業所名	対象者数	回収票数	有効票数	不能票数	備考
北海道	住友金属鉱山 糸市鉱業所	574	33人	30	33	（5月実施）
青森	弘南バス 株式会社	902	46	45	42	4
岩手	東北電気鉄鋼製鋼工場	787	40	40	38	2
宮城	東北電力 株式会社	815	85	68	56	12
秋田	秋田木材株式会社	796	71	65	65	0
山形	日本金属鉱山 蔵王鉱業所	419	30	35	35	0（10月実施）
福島	日本紡績 葛山工場	1477	150	147	143	4
茨城	日立製作所 日立工場	5858	322	179	177	2
栃木	高崎製紙 日光工場	820	42	46	40	6
群馬	白石工業 白鶴工場	357	35	35	35	0
埼玉	日産自動車 野工場	488	42	39	39	0
千葉	川崎製鉄 千葉製鉄所	6853	27	25	25	0

(8)

県名	事業所名	従業員数	対価相徴数	回収票数	有効票数	不能票数	備 考
千葉	北越製紙市川工場	489	29	25	25	0	
東京	東都製紙東京製紙所	1,175	289	277	272	5	(3月実施)
神奈川	日平産業株式会社	700	65	54	52	2	(5月実施)
新潟	新潟鉄鋼所新潟支社	3568	32	31	31	0	
富山	不二越鋼材工業株式会社	4051	54	36	36	0	
石川	石川製作所麻本工場	650	41	28	28	0	
福井	信越化学武生工場	550	21	21	21	0	
長野	林式会社前田鉄工所	不明	41	36	32	4	
静岡	本州製紙静岡工場	281	74	54	54	0	
愛知	大同毛織稲沢工場	692	50	48	48	0	
三重	東亜紡織沼工場	970	50	50	50	0	
滋賀	東洋レーヨン滋賀工場	5726	36	36	36	0	

大阪	茨木チーザ住宅宅		92	92	84	8	
兵庫	小泉興産株式会社	2600	98	74	74	0	
奈良	日本アスベス王寺工場	328	47	47	47	0	
和歌山	大和紡織松原工場	586	80	72	70	2	
鳥取	国鉄米子管理局鳥取駅	740	23	23	22	1	
島根	チーエム紡織製作所安道工場	1095	108	82	82	0	
岡山	倉敷紡績岡田市工場	440	40	40	40	0	
広島	三菱造船広島造船所	5322	134	116	116	0	
山口	旭山炭鉱株式会社	680	291	258	258	0	
長門	井関興産株式会社	1055	48	42	41	1	
高知	白石工業土佐工場	204	47	34	34	0	
福岡	服生地産服生地製所	500	300	242	221	21	
佐賀	片島炭坑片島鉱業所	4600	340	259	249	1	

(9)

県名	事業所名	従業員数	投票者総数	回収票数	有効票数	不能票数	備考
長崎	浜江炭礦三浦廠	45	25	25	25	0	
熊本	中央炭礦株式会社	556	43	50	30	0	(3月実施)
大分	日本鉱業株式会社	1,900	92	83	83	0	(4月実施)
宮崎	旭化成旭硝工場	15,000	47	36	36	0	(5月実施)
鹿児島	国鉄西鹿児島工場	1,153	93	87	87	0	
計			3612	3101	3032	69	

4 調査事項（別添表同表参照）

(1) 世帯について

世帯主の職業及び月収

世帯構成

(2) 主婦の生活と意識について

生活技術

所属団体（サークル等）

主婦自身の成長のための時間

読書傾向

社会の配置

主婦の手やり

等

5 調査の時期

この調査はおおむね昭和34年之月中に実施した。（数地区が都合で3月、5月等は
(11)

2月に実施している。）

(2)

II 調査の結果

1. 対象世帯の概況

(1) 主婦の年代

モリサベ地区において、生活技術指導を受けている主婦の年代は30代の者が最も多く、全体の43.9%であり、続いて40代が28.6%、20代が20.8%となっている。50代以上の者はそれぞれ、僅か1%である。（下表）

(2) 主婦の学歴

次に主婦の学歴をみると、高小または新中卒が最も多く、57.6%と過半数を占める。

表2 表 主婦の年代と学歴

	総数	20代未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不明
総数	3,032 (100.0)	7 (0.2)	651 (20.8)	1,303 (43.0)	806 (26.6)	200 (6.6)	118 (3.9)	70 (2.3)
小	437 (14.4)	0	20	136	184	81	10	16

(14)

	総 数	20才未満	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60才以上	不 明
高小 新中卒	1595 (52.6)	2	358	710	414	78	5	24
旧中 新高卒	801 (26.4)	1	224	386	455	26	0	8
旧専 大卒卒	45 (22)	0	18	28	15	4	0	0
不 明	134 (4.4)	0	11	43	38	11	0	31

() 内は%

旧中または新高卒 (26.4%) 大卒 (4.4%) などに就いている 旧専以上を卒業したものはいずれも22%である (第2表)

(3) 主婦の現金収入

次に主婦の現金収入の状況をみると、収入のない者が圧倒的に多く73.9%を占めており、勤務もしくは内職により現金収入を得ている者は、僅か19.9%にすぎない。これを年令階別に見ると、勤務を有する主婦の率は、子供が成長し手が省けたと

考えられる40才以上は多く、40代では11.8%、50代では11.5%である。また内職についてみると、30～40代に内職従事者が多く、30代では14.3%、40代では11.4%が内職をしている。

勤務、内職を含めて、現金収入を得ている主婦は、40代に最も多く、23.2%について30代の18.1%となっている。

現金収入額は、勤務者の場合、税引月額8000円未満の者が59.4%で過半数を占め、内職者については1カ月3000円未満の収入の者が79.1%の高率を示している。内職者の中には月5000円以上の収入を得ている者も3.3%ある。(第3表)

表3 主婦の現金収入の有無

	総 数	20才未満	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60才以上	不 明
総 数	3032 (100.0)	7	1431 (471.0)	1303 (430.0)	806 (266.0)	200 (66.0)	15	70
有	541 (17.9)	3	72 (11.7)	234 (18.1)	187 (23.2)	34 (17.0)	3	4

(15)

収入のあるもの	勤	小計	総数	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60以上	不明
勤	小	5000円以下	254 (84)	2	39 (62)	89 (68)	95 (118)	23 (115)	2	4
			74 (25)	0	3	29	84	7	1	0
			177 (25)	1	14	22	31	7	0	2
			24 (08)	0	9	9	5	1	0	0
			58 (19)	0	10	26	13	6	1	2
不	計	10000円以上	21 (07)	1	3	3	12	2	0	0
			287 (95)	1	35 (55)	147 (113)	92 (114)	11 (55)	1	0
			42 (14)	0	12	26	4	0	0	0

収入のないもの	不	計	総数	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60以上	不明
不	計	5000円以上	162 (53)	0	16	84	54	8	1	0
			39 (13)	0	3	16	18	1	0	0
			21 (07)	0	1	13	6	1	0	0
			23 (08)	1	3	8	10	1	0	0
収入のないもの	不	5000円以下	242 (53)	4	529 (838)	981 (1853)	538 (667)	147 (135)	12	31
			249 (82)	0	28	86	81	19	0	35

(4) 夫の職種及び月収

() 内は%

夫の職種は、現場関係が全体の77%を占め、事務関係は僅か11%である。これはモデル地区が、主として現場関係者の居住地区に重点を置いて選定された結果である。次に夫の職場における従業員上の地位をみると、役付の者は現場関係では77%、

事務関係では25.8%と比較的授付の割合が少なくなっている。

又いて、月収を見ると、税入20,000円以上55,000円未満の者が総数の18.7%を最も多く、これを頂点としてその前後に分布しているが、事務従事者の月収分布状況を現場従事者のそれと比較してみると、前記入層に比較的厚く分布している。

(昭和33年の賃金調査基本調査による、全産業平均男子労働者の「毎日きまつて支払われる賃金」は、19,649円である。)

第14表 夫の職種と月収(一)

	総数	10000円以下	10000~14999	15000~19999	20000~24999	25000~29999	30000~34999	35000~39999	40000以上	不明
総計	3,632 (100)	25 (0.8)	304 (6.7)	450 (14.9)	568 (18.7)	431 (14.2)	303 (10.0)	147 (4.8)	159 (5.3)	745 (24.4)
小計	2,335 (770)	24	180	201	408	364	236	102	117	433
現工員	1,418 (46.8)	15	139	280	325	212	122	37	22	259

場	授付	398 (13.1)	1	4	25	56	72	80	51	77	29
	不明	518 (19.1)	8	35	89	97	80	34	14	16	145
	小計	4-3 (14.0)	1	24	45	86	63	65	45	42	57
	事務員	187 (6.2)	0	12	24	50	36	25	16	4	18
	役付	109 (3.6)	0	2	5	8	11	29	19	27	8
事務	不明	127 (4.2)	1	10	14	38	16	11	10	11	26
	不明	274 (9.0)	0	0	4	4	4	2	0	0	260

オ5表 夫の年収と月収 (三)

	総 数	10,000円以下	10,000 ~14,999	15,000 ~19,999	20,000 ~24,999	25,000 ~29,999	30,000 ~34,999	35,000 ~39,999	40,000円以上	不 明
現 場	100%	1.0	3.8	17.2	20.5	15.6	10.1	4.3	5.0	18.5
事 務	100%	0.2	5.7	10.6	20.3	14.9	15.4	10.7	9.9	12.3
不 明	100%	0	0	1.5	1.5	1.5	0.7	0	0	94.8

(5) 家族構成及び世帯人員

「夫婦」、または「夫婦と子供」といったいわゆる近代的家族構成の世帯が80.2%を占め、親や兄弟姉妹その他の者が同居している世帯は19.1%である。これを婦人少年局が昭和26年及び28年に調査した、工場労働者の家族構成に比較すると、大工場労働者の近代型世帯が85%に近く、(婦人労働賃料シリーズ調査資料N08、工場労働者家族の生活、N013、中小工場労働者家族の生活 参照)モテル地区の大部分が、従業員数300人以上の大企業労働者の居住地区であることと関連があると思われる。

。(オ6表)

近代的家族構成の世帯が多いため、多人数世帯は少なく、平均世帯人員は4.8人で世帯員数4人から5人の世帯が最も多く、53%に達し、6人以上の世帯は27.5%にすぎない。

(オ7表)

オ6表 家族構成

世 帯 員 数	3,032 (100.0)	
	夫 婦	1.0 (3.8)
近 代 型	夫婦と子供	2.322 (76.6)
	小 計	2.432 (80.2)
近代型+親		3.20 (10.2)
近代型+その他		1.1 (3.0)

オ7表 世帯員数別世帯数と平均世帯員数

調査世帯数	3,032世帯 (100.0)
世帯員数	14,497人
平均世帯員数	4.8人
世帯員数別世帯数	2人 132 (4.4)
	3人 427 (14.1)
	4人 793 (26.2)

(21)

世帯主・親・その他	107 (3.5)
不明	82 (2.7)

() 内は%

世帯員数別	世帯数		
	5人	6人	7人
	514 (24.8)	468 (15.4)	244 (8.0)
	8人	9人	10人以上
	92 (3.0)	24 (0.8)	9 (0.3)
	不明	8 (0.3)	

() 内は%

2 家計管理の状況

(1) 生活費の計画

生活費の消費計画を立てている者は、全体の49%で、これを夫の職別に見ると事務関係ではその56%、現場関係ではその48.7%となっている。一方生活費の計画を全然たてていない者は、全体の11.3%で、これを前記同職別の職別に見ると事務関係では5.2%であるのは対し、現場関係では12.1%と著しい差が見られる。

表3 生活費の計画を立てていますか

主 席 の 年 令 別	総 数			
	計	立てている	たてたり たてなかった	全然 たてない
20才未満	7 (100.0)	3 (42.8)	2 (28.6)	2 (28.6)
20～29才	63 (100.0)	362 (57.4)	202 (32.0)	54 (8.6)
30～39才	1,303 (100.0)	684 (52.5)	453 (34.8)	165 (12.7)
40～49才	806 (100.0)	533 (41.3)	309 (38.3)	120 (14.9)

主婦の年令別	総数	たてている	たてたり たてなかったり	全然 たてない	不明
50～59歳	200 (100.0)	72 (36.0)	45 (22.5)	44 (22.0)	19 (9.5)
60歳以上	15 (100.0)	7 (46.7)	2 (40.0)	2 (13.3)	0
不明	70 (100.0)	27 (38.6)	23 (32.9)	4 (5.7)	16 (22.8)
計	3,032 (100.0)	1,488 (49.4)	1,060 (35.0)	343 (11.3)	141 (4.7)
専務	423 (100.0)	237 (56.0)	152 (35.9)	22 (5.2)	12 (2.9)
現場	2,385 (100.0)	1,137 (47.7)	818 (34.3)	283 (12.1)	97 (4.2)
不明	224 (100.0)	114 (51.8)	90 (32.8)	38 (16.9)	32 (14.7)

() 内は%

次にこれを年令別に見ると、20代、30代では「計画を立てている」と答えてい

る者が、52.4%、52.5%で半数以上であり、「全然たてない」という者は僅か9%弱であるのに対し、40歳以上では「たてている」者の減少の反面「全然たてない」者の率が増加しており、とくに50歳代の率が高いのが目立っている。(オ&表)

(2) 生活費の計画を立てる者

生活費の計画を立てている者及びたてたりたてなかったりするに答えた者に対して、その「計画を立てる者」は誰であるかを調査した結果をみると、「夫と妻が相談して」と答えた者が50.7%で最も多く、「妻」の38.5%がこれにつき、「家族が相談する」「夫」等の答えは極めて少い。

これを年令階別に見ると40歳未満では「夫と妻が相談する」者が20代で62%、30代では62.8%と過半数を占めているが、子供が成長していると思われる40歳以上では、「夫と妻が相談する」者の減少と逆に「家族が相談する」という回答が増加している。

また、夫の職種別にこれを見ると、専務関係では、「妻」が生活費の計画を立てる者が48.8%で「夫と妻が相談する」者(43.4%)をわずかながら上回っているの

(26)
に反して、現場関係では「夫と妻が相談する」者(53%)の方が「妻」(36.4%)より高率である。(オ 9 表)

オ 9 表 生活費の計画を立てる人は誰ですか

	総数	夫と妻	夫	妻	家族相談	その他	不明
計	2,548 (100.0)	1,278 (50.1)	58 (2.3)	980 (38.5)	158 (6.2)	12 (0.5)	62 (2.4)
主婦							
20才未満	5	1	0	2	1	0	1
20～29才	564 (100.0)	350 (62.1)	9 (1.6)	171 (30.3)	19 (3.4)	5 (0.9)	10 (1.8)
30～39才	1,137 (100.0)	600 (52.8)	29 (2.5)	442 (38.9)	45 (4.0)	1 (0.1)	20 (1.7)
40～49才	642 (100.0)	261 (40.7)	8 (1.2)	296 (46.1)	54 (8.4)	5 (0.8)	18 (2.8)
50～59才	137 (100.0)	40 (29.2)	10 (7.3)	47 (34.3)	32 (23.4)	1 (0.7)	7 (5.1)
60才以上	13 (100.0)	3 (23.1)	2 (15.4)	3 (23.1)	4 (30.7)	0 (-)	1 (7.7)

不明	50	23	0	19	3	0	5
計	2,548 (100.0)	1,278 (50.1)	58 (2.3)	980 (38.5)	158 (6.2)	12 (0.5)	62 (2.4)
夫							
専務	389 (100.0)	169 (43.4)	3 (0.8)	190 (48.8)	15 (3.9)	5 (1.3)	7 (1.8)
現場	1,955 (100.0)	1,036 (53.0)	50 (2.6)	712 (36.4)	114 (5.8)	4 (0.2)	39 (2.0)
不明	204	173	5	78	29	3	16

(3) 家計簿

(うち内は%)

1 家計簿の記入状況

生活費の計画を立てている者は49%、だてたりたてなかつたりする者は33% (オ 8 表)で、尤も84%の主婦が生活費の計画を立てようとしていているわけであるが、これと関連して家計簿などの程度記入されているかを調査してみると、全体の36.4%が「つており」、「つたたりつたなかつたりする」者が33.8%、「全然つけない」者が25.2%である。

これを平令階別にみると、年令が高くなるほど「家計簿をつけている」比率は減少し、「全然つけない」者が増加している。また夫の取種別にみると、事務関係では「つけている」者が46.4%で、「全然つけない」者は15.1%であるが、現場関係では前者が35.2%、後者が26.6%となっており、事務関係の者と比較すると「全然つけない」者の率が高くなっている。「ついたり、つかなかつたりする」と答えた者の比率は、平令・事務現場関係による差はあまりみられない。(オ 10 表)

オ 10 表 家計簿をつけていますか

	総 数	つけている	ついたりつかなかつたり	全然つけない	不 明
主 計	3,032 (100.0)	1,105 (36.4)	1,023 (33.8)	765 (25.2)	139 (4.6)
婦 女	2,100 (100.0)	744 (35.4)	709 (33.7)	517 (24.7)	130 (6.1)
の 年 令					
20 ~ 29	631 (100.0)	303 (48.1)	209 (33.1)	109 (17.3)	13 (2.1)
30 ~ 39	1,303 (100.0)	496 (38.0)	448 (34.4)	311 (23.9)	48 (3.7)
40 ~ 49	804 (100.0)	236 (29.4)	276 (34.2)	241 (29.9)	53 (6.5)
50 ~ 59	200 (100.0)	15 (22.5)	65 (32.5)	78 (39.0)	12 (6.0)

60歳以上	15 (100.0)	2 (13.3)	7 (46.7)	6 (40.0)	0 (-)
不 明	70 (100.0)	19 (27.1)	17 (24.3)	21 (30.0)	13 (18.6)
夫 の 取 種 別					
計	3,032 (100.0)	1,105 (36.4)	1,023 (33.8)	765 (25.2)	139 (4.6)
事務	423 (100.0)	196 (46.4)	144 (34.5)	64 (15.1)	19 (4.0)
現場	2,335 (100.0)	822 (35.2)	800 (34.3)	621 (26.6)	92 (3.9)
不 明	274 (100.0)	87 (31.8)	77 (28.1)	80 (29.2)	30 (10.9)

ロ 家計簿の記入方法

() 内は%

次に「家計簿をつけている」「ついたりつかなかつたり」と答えたものの2,128名について、家計簿の記入方法をみると、「つけている」者では、そのうち60.3%が項目別にわけた記入方法をとっているが、「ついたりつかなかつたり」と回答した者の場合は、項目別にわけた記入法をしているのは僅か16.5%で、大部分が項目別にわけない大雑把的な記入が、または主なものだけを覚えての記入にしている程度である。

(オ 11 表)

ハ 家計策の利用

上に見たように、家計策を求めているものは、「つきたりつけないか」と答えただ者も含めて、全体の70.2%であるが、これらの主婦たちについて家計策が後日どの程度参考とされているかを見ると、「つけている」者では、「参考としている」者が、63.2%、「していない」と答えた者が33.8%である。一方「つきたりつけないか」と答えた者では「参考にしていない」と答えた者が約42%あるが、これは当然の結果といえよう。

オ//表 家計策のつけ方

種	数	項目にわたる	項目につけない	主なものをおぼえのため	不明
計	2,128 (100.0)	835 (39.2)	833 (39.2)	390 (18.3)	70 (3.3)
つけている	2,105 (100.0)	666 (60.3)	372 (33.7)	53 (4.8)	14 (1.2)
つきたり つけないか	1,023 (100.0)	169 (16.5)	461 (45.1)	337 (32.9)	56 (5.5)

() 内は%

オ//2 表 家計策を後日の参考としているか

	紙	数	している	していない	不明
計	2,128 (100.0)	951 (44.7)	1,069 (50.2)	108 (5.1)	
つけている	1,105 (100.0)	698 (63.2)	374 (33.8)	33 (3.0)	
つきたり つけないか	1,023 (100.0)	253 (24.7)	695 (67.9)	75 (7.4)	

() 内は%

この結果から全般的に見て、家計策の機能はまた十分にはたされていはいないといえよう。

3. 生活技術指導

(オ//2 表)

(1) 生活技術指導受講の有無

モデル地区の主婦が、婦人少年室による家庭指導以外に、家計策のつけ方、料理、子供のしつけ、その他家庭生活に関する事をきいたり、実習をする等、生活技術一般について指導を受けることがあるかどうかについてみると、「指導をうけることがある」と答えた者は、僅か27.1%であり、過半数の主婦は(53.2%)「ない」と答えている。年令階別には大差はないが、30代が31.1%、70代比較的低く指導を受

(32)

けている。夫の取組別にみると、専務関係が39.2%、現場関係が26.4%で、専務関係の主婦の方がはるかに多く指導を受けている。(オ/3表)

次に「指導を受けることがある」と答えた822名について、その指導を主催した機関をみると、婦人団体24.9%、地方公共団体19.5%、ついで労組、社芸主婦会の18.4%となっている。夫の取組別については、専務関係が婦人団体、地方公共団体から指導を受ける機会が多く、労組、社芸主婦会や事業所から指導をうけることが極めて少ないのに対し、現場関係ではこれらのあいだの差はあまりみられない。すなわち、労組、社芸主婦会、及び事業所から指導を受ける率が専務関係にくらべて高い。(オ/4表)

オ/3表 生活技術指導 (-)

	総 数	受けることがある	受けることがない	不明
計	8,032 (100.0)	822 (27.1)	6,135 (53.2)	597 (19.7)
20才未満	7 (100.0)	0 (-)	5 (71.4)	2 (28.6)
20 ~ 29才	631 (100.0)	150 (23.8)	395 (62.7)	85 (13.5)
30 ~ 39才	303 (100.0)	405 (31.1)	673 (51.6)	225 (17.3)

年 令 別	806 (100.0)	225 (27.9)	399 (49.5)	182 (22.6)
40 ~ 49才	200 (100.0)	36 (18.0)	114 (57.0)	50 (25.0)
50 ~ 59才	15 (100.0)	1 (6.7)	10 (66.7)	4 (12.6)
60才以上	90 (100.0)	5 (7.1)	16 (22.9)	49 (70.0)
計	3,032 (100.0)	822 (27.1)	6,135 (53.2)	597 (19.7)
専 務	423 (100.0)	146 (39.2)	206 (48.7)	51 (12.1)
現 場	2,335 (100.0)	617 (26.4)	5,282 (54.9)	436 (18.7)
夫の取組別	294 (100.0)	39 (14.2)	125 (45.6)	110 (40.2)

() 内は%

オ/4表 生活技術指導の主催機関 (二)

	総 数	婦人団体	当該事業所	地方公共団体	商 社	その他
計	852 (100.0)	125 (18.4)	91 (9.6)	237 (24.9)	186 (19.5)	77 (26.9)
20才未満	(-)	0				

	種 数	協同組合	当業系市	婦人団体	地方団体	専 門 士	その他
主 婦							
20 ~ 29 才	169 (100.0)	49 (29.0)	18 (10.7)	32 (18.9)	22 (13.0)	3 (1.8)	35 (20.6)
30 ~ 39 才	465 (100.0)	88 (18.9)	59 (12.4)	114 (24.5)	102 (21.9)	2 (0.5)	120 (25.3)
40 ~ 49 才	267 (100.0)	29 (10.9)	27 (10.1)	25 (28.1)	59 (21.3)	2 (0.8)	77 (28.8)
50 ~ 59 才	44 (100.0)	8 (18.2)	7 (15.2)	13 (29.5)	3 (6.9)		13 (29.5)
60 才 以上	1 (100.0)			1 (100.0)			
令 別							
不 明	6 (100.0)	1 (16.7)		2 (33.3)	2 (33.3)		1 (16.7)
計	952 (100.0)	195 (20.4)	91 (9.6)	237 (24.9)	186 (19.5)	7 (0.7)	256 (26.9)
事 務	194 (100.0)	9 (4.6)	8 (4.1)	41 (31.5)	49 (25.3)	1 (1.5)	65 (33.5)
現 場	714 (100.0)	154 (21.6)	99 (11.1)	166 (23.2)	130 (18.2)	6 (0.8)	199 (28.0)
不 明	44 (100.0)	12 (27.3)	3 (6.8)	10 (22.7)	7 (15.9)		12 (27.3)

() 内は%

(2) 生活合理化のための器具所有状況

皿水、生活合理化のための器具の普及は目覚ましいものがあるが、その所有状況をみるとラジオは全世帯の 92.9%が所有しており、ビニルは 42.6%でこれに次いでいる。電気釜、電気洗濯機もそれぞれ 24.7%、18.7%が所有している。これを年令階別に見ると、電気釜、洗濯機、冷蔵庫、暖房器具などは、30 才未満の年令層においてその所有率が高く、多少の増減はあるが、年令が高くなるに伴い所有率は減りしている。

次に、大の屋場別にその所有状況と比較すると、現場関係者の所有率は、一般に事務関係者のそれを下廻り、この傾向は、テレビ、電気洗濯機、電気掃除機、冷蔵庫などの高価な器具において著しい。(オノ表)

なお、参考までに、本調査における生活合理化器具の所有状況を、消費者動向予測調査(昭和33年9月、全産企画庁)都市部の結果と比較するとオノ表のとおりである。

(36)

オ15表 生活合理化のための器具 (実数)

	計	ラジオ	ミシン	電気釜	テレビ	電灯増設	電気掃除機	冷蔵庫	暖房器具
主婦									
20才未満	7	4	2						1
20～29才	1782	1582	466	195	86	140	9	63	241
30～39才	3575	1216	894	345	215	253	13	142	497
40～49才	2025	746	537	152	111	136	11	71	251
50～59才	467	184	109	45	18	32	3	24	52
60才以上	24	12	5	1	2	1		1	2
不明	146	82	42	11	8	6		1	16
計	8026	2816	2055	749	1110	568	36	302	1060
世帯	1535	467	345	179	92	172	15	99	226
現場	5903	2167	1561	513	330	364	19	182	767
不明	588	342	149	57	18	32	2	21	67
夫の取柄別									

オ16表 生活合理化のための器具の所有状況 (%)

	世帯数	ラジオ	ミシン	電気釜	テレビ	電灯増設	電気掃除機	冷蔵庫	暖房器具
計	(3,032) 100.0	92.9	67.8	26.7	14.5	18.7	1.2	10.0	35.0
主婦	(7) 100.0	57.1	28.6						14.3
20才未満	(631) 100.0	92.2	73.9	30.9	13.6	22.2	1.4	10.0	38.2
20～29才	(1303) 100.0	93.3	68.6	26.5	16.5	19.4	1.0	10.9	38.1
30～39才	(806) 100.0	93.8	66.6	18.9	13.8	16.9	1.4	8.8	31.1
40～49才	(200) 100.0	92.0	64.5	23.5	9.0	16.0	1.5	12.0	26.0
50～59才	(15) 100.0	80.0	33.3	6.7	13.3	6.7		6.7	13.3
60才以上	(90) 100.0	88.6	60.0	15.7	11.4	8.6		1.4	22.9
計	(3032) 100.0	92.9	67.8	24.7	14.5	18.7	1.2	10.0	35.0
世帯	(423) 100.0	96.2	81.6	42.3	21.7	40.7	3.5	23.4	53.4
現場	(2335) 100.0	92.8	66.9	22.0	14.1	15.6	0.8	9.8	32.8
不明	(294) 100.0	88.3	54.4	20.8	6.6	11.7	0.8	7.7	24.5
夫の取柄別									

(37) 内訳実数

(37)

オノノ表 生活合理化のための器具所有状況の比較
(100世帯当りの所有世帯数)

	ラジオ	シン	電気釜	テレビ	暖気器	電氣掃除機	冷蔵庫	暖房器具
戸部屋における生活合理化器具の所有状況	92.9	67.8	24.7	14.5	18.7	1.2	10.0	35.0
消費行動向予測部屋における生活合理化器具の所有状況	91.7	66.3	15.6	15.9	29.3		22.2	

注ノ) 消費者動向予測調査 昭和33年9月 全府企画庁(東地)

2) 本表に記載してあるのは、上記調査の都市部における数字である。

4. 団体への加入状況

主婦の団体加入の状況はオノノ表のとおりで、81.2%と大衆数の主婦が団体に加入しており、非加入者は僅か24%である。

これと年令階層別に見ると、多少の増減はあるが、年令が高くなるに伴い、団体への加入の比率が上昇しているのがみられる。

次に学厂別に見ると、全体の傾向として、学厂が高くなる程、団体への加入も多く、小卒で「団体に加入している」と答えた者は72.6%であるのに対して、旧専以上の専

校を卒業した者では87.7%と高くなっている。

次に団体へ加入していると答えた者について、加入団体の内訳をみると、地域婦人会が35.9%で最も多く、社会婦人会の28.3%、労組主婦会の23.9%がこれに続き、生活協同組合等の他の団体に加入している者は、ごく少数である。機率的にいつて地域的な集団への加入が多く、友の会、婦人有权者同盟等の目的的な集団への加入は着るしく低い、地域婦人会への加入者が比較的少いのは地域的に孤立した社会居住者の特徴と思われるが、加入団体の内訳については、年令、学厂による差異は認められない。(オノノ表)

オノノ表 団体への加入の状況

	総数	入っている	入っていない	不明
主婦の年令別	計	3,032 (100.0)	2,463 (81.2)	497 (16.4)
	20才未満	7 (100.0)	5 (71.4)	2 (28.6)
	20 ~ 29	631 (100.0)	500 (79.2)	117 (18.6)
	30 ~ 39	1,303 (100.0)	1,059 (81.3)	203 (15.6)

	総数	入っている	入っていない	不明
40 - 49	806 (100.0)	891 (85.7)	91 (1.1)	106 (13.2)
50 - 59	200 (100.0)	157 (78.5)	7 (3.5)	36 (18.0)
60 以上	15 (100.0)	14 (93.3)		1 (6.7)
不明	70 (100.0)	37 (52.9)	1 (1.4)	32 (45.7)
計	3,032 (100.0)	2,463 (81.2)	121 (2.4)	449 (14.4)
小 平	437 (100.0)	348 (79.6)	11 (2.5)	78 (17.9)
高小、新中平	1,585 (100.0)	1,317 (82.6)	42 (2.6)	226 (14.8)
旧中、新高平	501 (100.0)	454 (81.6)	16 (2.0)	131 (16.4)
旧専 大平	65 (100.0)	57 (87.7)	2 (3.1)	6 (9.2)
不明	134 (100.0)	87 (64.9)	1 (0.7)	46 (34.4)

() 内 100

才、9 表 加入団体の内訳

	検数	地域の 婦人会	生涯 主婦会	主婦会	生活協 同組合	婦人団体 若同盟	友の会	政 党	その他
計	3321 (100.0)	1192 (35.9)	939 (28.3)	795 (23.9)	71 (2.1)	2 (0.1)	23 (0.7)	8 (0.2)	291 (8.8)
20 未満	7 (100.0)	4 (57.1)		2 (28.6)					1 (14.3)
20 - 29	683 (100.0)	233 (34.1)	192 (28.1)	189 (27.7)	11 (1.6)		5 (0.7)	1 (0.1)	52 (7.7)
30 - 39	1,411 (100.0)	585 (35.8)	419 (29.7)	321 (23.2)	37 (2.6)		13 (0.9)	5 (0.4)	105 (7.4)
40 - 49	938 (100.0)	340 (36.3)	266 (28.4)	199 (21.2)	22 (2.3)	2 (0.2)	4 (0.4)	1 (0.1)	104 (11.1)
50 - 59	218 (100.0)	89 (40.9)	39 (17.9)	68 (31.2)	1 (0.4)		1 (0.4)	1 (0.4)	19 (8.8)
60 以上	19 (100.0)	9 (47.3)	2 (10.5)	4 (21.1)					4 (21.1)
不明	45 (100.0)	13 (28.7)	21 (46.7)	4 (13.3)					6 (13.3)
計	5321 (100.0)	1192 (22.5)	939 (28.3)	795 (23.9)	71 (2.1)	2 (0.1)	23 (0.7)	8 (0.2)	291 (8.8)
小 平	502 (100.0)	195 (34.9)	104 (20.7)	137 (27.3)	19 (3.4)		2 (0.4)	2 (0.4)	45 (12.9)
高小、新中平	1,704 (100.0)	519 (34.0)	409 (28.1)	437 (25.7)	36 (2.1)	2 (0.1)	7 (0.4)	3 (0.2)	161 (9.4)
旧中、新高平	919 (100.0)	344 (39.8)	288 (31.4)	186 (20.2)	17 (1.9)		13 (1.4)	2 (0.2)	47 (5.1)

(41)

	総数	地域の婦人会	社会主義会	労働組合	生活協同組合	婦人同盟	友の会	政党	その他
旧専任婦人	56 (100.0)	34 (59.5)	32 (57.2)	9 (10.4)	1 (1.2)		1 (1.2)	1 (1.2)	8 (9.3)
不明	110 (100.0)	38 (34.6)	36 (32.7)	26 (23.6)					10 (9.1)

() 内は %

5 主婦自身の成長のための時間

(1) 主婦の要求

主婦が、自分の成長のための時間についてどの程度の要求をもっているかについて調査結果「自分の成長のための時間」をもちたいと思う」と答えたものの24.3%と認め「思わぬ」と答えたものは僅か8.3%である。

これを年代階別に見ると、20代、30代は夫々約80%が「もちたいと思う」もので、「もちたいと思わない」ものは5%前後であるのに対し、40代以上は、「もちたいと思う」者が減少し、「もちたいと思わない」者がそれぞれ10%以上に増加している。(オ 20 表)

(2) 主婦の成長のための時間の有無と内容

成長のために自分の時間をもちたいと思っている者は上記のように妥協をせめていいる。(オ 21 表)

オ 20 表 自分の成長のための時間をもちたいと思えますか

() 内は %

主婦の年代別	総数	思っている	思わぬ	わからない	不明
総数	3,032 (100.0)	2,253 (74.3)	222 (7.3)	282 (9.3)	275 (9.1)
20 代未満	7 (100.0)	1 (14.3)	0 (—)	5 (71.4)	1 (14.3)
20 ～ 29 代	631 (100.0)	522 (82.7)	30 (4.8)	45 (7.1)	34 (5.4)
30 ～ 39 代	1,305 (100.0)	1,036 (79.5)	71 (5.4)	87 (6.7)	109 (8.4)
40 ～ 49 代	805 (100.0)	535 (66.4)	90 (11.1)	99 (12.3)	82 (10.2)
50 ～ 59 代	200 (100.0)	122 (61.0)	24 (12.0)	30 (15.0)	24 (12.0)
60 代以上	15 (100.0)	7 (46.7)	2 (13.3)	4 (26.7)	2 (13.3)
不明	70 (100.0)	30 (42.9)	5 (7.1)	12 (17.1)	23 (32.9)

(43)

オ21表 自分の成長のための時間を現在もっていますか

	総 数	持っている	持っていない	不 明
総 数	3,032 (100.0)	463 (15.3)	2,089 (68.9)	480 (15.8)
20才未満	9 (100.0)	1 (11.3)	4 (57.1)	2 (28.6)
20～29才	631 (100.0)	84 (13.3)	488 (77.3)	59 (9.4)
30～39才	1,303 (100.0)	216 (16.6)	894 (68.6)	193 (14.8)
40～49才	806 (100.0)	121 (15.0)	534 (66.3)	151 (18.7)
50～59才	200 (100.0)	30 (15.0)	129 (64.5)	41 (20.5)
60才以上	15 (100.0)	1 (6.7)	11 (73.3)	3 (20.0)
不 明	70 (100.0)	10 (14.3)	29 (41.4)	31 (44.3)

() 内は%

オ22表 自分の時間を何に使っているか

項 目	実 数
総 数	382
ラジオ、新聞テレビ等	65
読 書	89
和洋裁、縫物手芸	100
茶道、華道	137
各種趣味	30
婦人会、PTA等 各種グループ活動	47
子供の世話	9
そ の 他	11

「持っている」と答えたものについて、そのすごし方を見ると、「読物、手芸、茶華道」などにこの時間を使っている者が最も多く、「教養（ラジオ、新聞、テレビ）、読書等」も、「婦人会、PTA等の各種グループ活動」がこれにしている。(オ22表)

(3) もてない理由

まえにみたように、自分の時間を持たたいと思っている者は全体の74.3%と圧倒的多数を占めているのに対し、現在自分の時間と「持っている」と答えている者は、僅か15.3%にすぎない。では多くの主婦はなぜ自分の時間と持てないのであるのか、これについて原因を調査してみると、「子供幼少」と答えたものが最も多く、29.4%。「家事多忙」が25.8%でこれに続いている。また「家族の無理解」、「近所がうるさい」との答えも少数ながらみられ、殊に後者については、社会という集団住宅の特徴の一つとして注目される。

なお、年令階層別に見ると、育児に手がかかる20代では「子供幼少」が最も多いが、子供がやや成長した30代以上では、「家事多忙」が次に増加している。

(オ23表)

23 表 もてない理由

年令別	総数	家事多忙	子供増少	家族の異動	近所がうるさい	その他	不明
総数	2448 (100.0)	658 (25.8)	749 (29.4)	59 (2.3)	67 (2.2)	290 (11.4)	725 (28.9)
20 才未満	7 (100.0)	0	1 (14.3)	1 (14.3)	1 (14.3)	0	4 (57.1)
20 ~ 29 才	515 (100.0)	96 (3.2)	343 (59.5)	11 (1.9)	7 (1.2)	85 (8.1)	104 (18.1)
30 ~ 39 才	1109 (100.0)	259 (23.4)	356 (32.1)	21 (1.9)	27 (2.4)	132 (11.9)	314 (28.3)
40 ~ 49 才	856 (100.0)	245 (38.5)	39 (6.1)	21 (3.3)	18 (2.8)	92 (14.5)	321 (34.8)
50 ~ 59 才	162 (100.0)	45 (40.1)	5 (3.1)	5 (5.7)	0 (0.0)	37 (16.4)	57 (35.2)
60 才以上	18 (100.0)	6 (14.1)	0	0	0	2 (15.4)	5 (38.5)
不明	46 (100.0)	7 (15.2)	6 (13.0)	0	1 (2.2)	2 (14.4)	33 (65.2)

3 主婦の読書傾向

(1) 雑誌

毎月雑誌を読んでいる者は 40.3%、読んでいない者は 48.2%である。

これを年令階層別にみると 30 才未満では「読んでいない」者の割合が「読んでいます」

の者を上回っているが、30 代では両者の間に差がなくなり、40 才以上では、
年令が上がるにつれて「読んでいます」者の割合に減少している。学生時代は、学
校の多い週刊雑誌を読んでいる者の率の上昇がみられる。

以下に表 毎月読んでいる雑誌があり、さすか

	総数	読んでいる	読んでいない	不明
総数	3032 (100.0)	1323 (40.3)	1461 (48.2)	648 (11.5)
20 才未満	7 (100.0)	3 (42.9)	3 (42.9)	1 (14.3)
20 ~ 29 才	631 (100.0)	333 (52.8)	244 (38.9)	54 (8.5)
30 ~ 39 才	1303 (100.0)	520 (43.0)	610 (46.8)	133 (10.2)
40 ~ 49 才	806 (100.0)	263 (32.6)	444 (55.1)	99 (12.3)
50 ~ 59 才	200 (100.0)	44 (22.0)	121 (60.5)	35 (17.5)
60 才未満	15 (100.0)	2 (13.3)	11 (73.4)	2 (13.3)
不明	70 (100.0)	18 (25.7)	33 (40.0)	19 (34.3)

	総 数	読んでいる	読んでいない	不明
計	3,032 (100.0)	1,223 (40.3)	1,461 (48.2)	348 (11.5)
小 学	437 (100.0)	94 (21.5)	280 (64.1)	43 (14.4)
高小 新中卒	1,595 (100.0)	518 (32.2)	837 (52.5)	180 (11.3)
旧中 新高卒	801 (100.0)	475 (59.3)	262 (32.7)	64 (8.0)
旧専 大卒半	65 (100.0)	44 (67.7)	19 (29.2)	2 (3.1)
不明	134 (100.0)	32 (23.9)	63 (47.0)	39 (29.1)

() 内は %

(2) 雑誌の種類

調査にしている雑誌の種類をみると、「婦人雑誌」が最も多く 60.7% を占め、料理と洋裁と「生活技術」に関する雑誌」及び「総合雑誌」は同率できわめて低い。これを年代階級別にみると、他の年代間には大差はないが、50代では「婦人雑誌」が大分減少し、「総合雑誌」や「その他の雑誌」の上昇がみられる。「生活技術」に関する雑誌」は20代が比較的高い。

オス 読 毎月読んでいる雑誌の内訳

	総 数	生活技術に関するもの	婦人雑誌	総合雑誌	その他
計	1,531 (100.0)	132 (8.6)	929 (60.7)	121 (8.6)	349 (22.1)
20才未満	3 (100.0)	0	1	0	2
20 ~ 29才	437 (100.0)	46 (10.5)	263 (60.2)	31 (7.1)	97 (22.2)
30 ~ 39才	700 (100.0)	62 (8.8)	421 (60.1)	51 (7.3)	139 (19.9)
40 ~ 49才	321 (100.0)	19 (5.9)	189 (58.9)	32 (10.0)	81 (25.2)
50 ~ 59才	148 (100.0)	3 (2.2)	71 (48.0)	8 (5.4)	66 (44.6)
60才以上	7 (100.0)	0	1	0	6
不明	28 (100.0)	2 (10.0)	13 (46.4)	5 (10.0)	8 (28.6)
計	1,531 (100.0)	132 (8.6)	929 (60.7)	121 (8.6)	349 (22.1)
小 学	97 (100.0)	3 (3.0)	40 (40.4)	5 (5.1)	49 (50.5)
高小、新中卒	646 (100.0)	32 (4.9)	428 (66.3)	35 (5.4)	151 (23.4)

	種	数	生活技術に 関するもの	婦人雑誌	総合雑誌	その他
高	旧中、新高中	653 (100.0)	78 (11.9)	381 (58.4)	66 (10.1)	128 (19.6)
正	旧専、大卒平	88 (100.0)	16 (18.2)	35 (39.8)	19 (21.6)	18 (20.4)
別	不 明	45 (100.0)	3 (6.7)	25 (55.6)	6 (13.3)	11 (24.4)

(一) 内訳%

学歴別にみると、「婦人雑誌」は高小、新中卒に読まれる率が最も高く、これに比して旧専、大卒卒では著しく減少している。「生活技術に関する雑誌」及び「総合雑誌」は学歴の高い程読まれる率の上升がえられる。(オ25表)

比較的多く読まれている雑誌名をあげ、(一)内に実数を示すと、次のとおりである。主婦の友(260)婦人生活(ニノノ)主婦と生活(スノコ)婦人倶楽部(ノク)週南誌(728)星の平帖(85)文芸春秋(610)平凡(610)婦人公論(34)婦人の友(20)明星(18)家の光(14)リーダーズダイジェスト(13)小説新報(11)

(3) 雑誌以外の書籍

雑誌以外の読書については「よく読む」と「時々読む」と答えたものは全体の66.2%で「読まない」者23.3%の約3倍であり、毎月雑誌を読んでいると答えた40.3%よりはるかに上回っている。

これを年令階層別にみると、年令が高くなるにしたがって、読む者の率が減少している。越歴の高い程本を読む者の率も高くなっているが、これは前記の雑誌の場合と同様である。(オ26表) (オ27表)

オ26表 雑誌以外の本を読みますか

(実数)

	種	数	よく読む	時々読む	読みたいが 時間がない	全く読まない	不 明
主婦の年令別	高	3032	326	1680	335	369	322
	20 才未満	7	1	3	1	1	2
	20 ~ 29 才	631	86	483	84	52	41
	30 ~ 39 才	1303	141	764	135	135	128
	40 ~ 49 才	806	69	425	90	121	101

担荷の針数	繰回数	よく読んだ	時々読んだ	読んだことが 場所がない	全く読まない	不明
50 ~ 59 才	200	15	86	24	49	23
60 才以上	15	1	5	2	5	1
不明	70	10	29		5	26
計	3032	326	1680	335	369	922
年 平	487	16	218	45	104	34
高小、新中平	595	147	902	173	185	178
旧中、新高中	801	194	462	104	52	49
旧専、大高平	65	20	33	6	4	2
不明	134	9	65	7	14	39

才2才表 難読以外の本を讀みきった

(%)

回数	よく読んだ	時々読んだ	読んだことが 場所がない	全く読まない	不明
計	100.0	10.8 (66.2)	55.4 (23.2)	11.0 (12.2)	10.6

主婦の年令別

20 才未満	100.0	(57.1)	42.8	(14.3)	14.3	28.6
20 ~ 29	100.0	(71.9)	58.3	(21.6)	8.3	6.5
30 ~ 39	100.0	(69.4)	58.6	(20.8)	10.4	9.8
40 ~ 49	100.0	(61.3)	52.7	(26.2)	15.0	12.5
50 ~ 59	100.0	(9.0)	43.0	(36.5)	24.5	11.5
60 才以上	100.0	(40.0)	33.3	(48.3)	40.0	6.7
不明	100.0	(55.7)	41.4	(7.1)	7.1	37.2
計	100.0	(66.2)	55.4	(23.2)	22.8	10.6
年 平	100.0	(53.5)	49.9	(34.1)	23.8	12.4
高小、新中平	100.0	(45.8)	58.6	(2.3)	12.2	14.2
旧中、新高中	100.0	(74.4)	57.7	(19.5)	6.5	6.1
旧専、大高平	100.0	(81.6)	50.8	(15.3)	6.1	3.1
不明	100.0	(55.2)	18.5	(15.7)	10.5	29.1

(4) 書籍の種類

モデル地区の主婦がどんな種類の本を読んでいるかを知るために、最近読んだ本の名を列記したところ、500以上に及び書籍名があげられたが、ほとんどが小説であり、特にベストセラーものが目立っている。小説のほかには、「子供のしつけ」「児童資料」「児童心理」「良い親、良くない親」「子供のあわせ」等々教育、育児に関するものが多い。またいずれかではあるが、美術、医学、歴史、科学等に関する書籍もみられる。

参考までに5名以上の記載した本をあげてみよう。()内は人数である。

人間の条件(112)にあんちゃん(36)お嬢さん放浪記(15)波のしん

(13)人間の壁(12)現代日本文学全集(12)綴方兄弟(10)女の一生

(10)細雪(8)木壁(7)挽歌(6)猫は知っていた(6)子供のしつけ(6)

荷車の歌(6)日本の底辺(5)夜坂(5)

7 社宅の配置についての意見

(1) 平場関係、現場関係がよいか

現在社宅に住んでいる主婦2,948名に対して、社宅は平場関係者、現場関係者とわけた方がよいかどうかについて調査したところ、「どちらでもよい」と答えた者が44.9%で最も多い。「わけた方がよい」という者は22.9%、「一籍の方がよい」という者は29.7%で大差はない。

現場関係者がよいかに「わけた方がよい」と答えたものが「一籍の方がよい」という者より多いのに対して平場関係者は逆に「一籍の方がよい」と答えたものがわすかに多くなっている。また年令階別では、20代、30代の主婦が「わけた方がよい」と答えたものが最も多いのに対して、40代以上の者は「一籍の方がよい」と答えたものが多少上回っているという傾向がみられる。(オ28表)

オ28表) 社宅は平場関係者、現場関係者とわけた方がよいか

	総数	わけた方がよい	一籍の方がよい	どちらでもよい	どちらでもない	不明
計	2,948 (100.0)	825 (27.9)	638 (21.7)	1,236 (41.9)	221 (7.5)	108 (3.6)
平場	374 (100.0)	79 (21.1)	85 (22.5)	165 (44.1)	30 (8.0)	15 (4.0)
現場	2,306 (100.0)	549 (23.8)	513 (22.3)	918 (42.4)	151 (6.5)	109 (4.7)

	概 数	わけがよい	一握の力がよい	どっちでもよい	力がよい	不明
不 明	268 (100.0)	40 (17.5)	40 (14.9)	93 (34.7)	34 (12.7)	54 (20.2)
計	2,948 (100.0)	675 (22.9)	636 (21.7)	1,236 (41.9)	221 (7.5)	178 (6.0)
20才未満	7 (100.0)	1 (14.3)	1 (14.3)	1 (14.3)	2 (28.5)	2 (28.5)
20 ~ 29	321 (100.0)	148 (23.8)	121 (19.5)	272 (43.8)	50 (8.1)	34 (4.8)
30 ~ 39	1,254 (100.0)	325 (25.9)	292 (23.3)	504 (40.2)	86 (6.4)	53 (4.2)
40 ~ 49	791 (100.0)	158 (20.0)	166 (21.0)	352 (44.5)	62 (7.8)	53 (6.7)
50 ~ 59	192 (100.0)	31 (16.2)	42 (21.9)	53 (43.2)	20 (10.4)	16 (8.3)
60才以上	13 (100.0)	4 (30.8)	6 (46.1)	3 (23.1)	0 (—)	0 (—)
不 明	70 (100.0)	8 (11.4)	10 (14.3)	21 (30.0)	7 (10.0)	24 (24.3)

() 内は%

(2) 同じ仕事場の人は隣同士がよいのか

前項目同様、社会居住者について、夫が同じ仕事場であるかについている者の家庭が隣同士の

の方がよいかどうかについて調査したところ、「どちらでもよい」と答えたものが、25.2%で最も多く、次に「離れた方がよい」が24.8%、「隣同士がよい」というのは20%であった。「離れた方がよい」と答えた者より「隣同士がよい」と答えた者が、わずかにあるが高率であるのは50才以上の者の場合である。(オ29表)

オ29表 夫が同じところに住んでいる家庭がどっちの方がよいのか

	概 数	離れた方がよい	離れた方がよい	どっちでもよい	わかつない	不 明
計	5,948 (100.0)	570 (20.0)	730 (24.5)	1,332 (45.2)	124 (4.2)	172 (5.8)
不 明	374 (100.0)	87 (15.3)	106 (28.3)	184 (49.2)	18 (4.8)	9 (2.4)
現 場	2,306 (100.0)	499 (21.6)	572 (24.8)	1,039 (45.1)	90 (8.9)	106 (4.6)
不 明	268 (100.0)	34 (12.7)	52 (19.4)	109 (40.7)	16 (6.0)	57 (21.2)
計	2,948 (100.0)	570 (20.0)	730 (24.5)	1,332 (45.2)	124 (4.2)	172 (5.8)
20才未満	7 (100.0)	1 (14.3)	1 (14.3)	2 (28.6)	0 (—)	2 (28.6)
20 ~ 29	321 (100.0)	132 (21.3)	153 (24.6)	284 (46.1)	25 (4.0)	25 (4.0)
30 ~ 39	1,254 (100.0)	253 (20.2)	327 (26.1)	565 (45.1)	49 (3.9)	60 (4.7)

主婦の年令別	総 数	障がいあり	障がいはない	どちらでもない	わからない	不 明
40 ～ 49	791 (100.0)	148 (18.7)	194 (24.5)	368 (46.5)	34 (4.3)	47 (5.9)
50 ～ 59	192 (100.0)	43 (22.4)	34 (17.7)	90 (46.9)	11 (5.7)	14 (7.3)
60 歳以上	13 (100.0)	4 (30.8)	3 (23.1)	5 (38.4)	1 (7.7)	0 (—)
不 明	70 (100.0)	9 (12.9)	17 (24.3)	16 (22.9)	4 (5.7)	24 (34.2)

() 内は%

8 主婦の手代り

(1) 主婦が病気の限の家事担当者

前に見たように、若手者を帯は、近代的家族構成が圧倒的に多いが、(オを参照) 主婦が病長の場合、これに代わつて家事を担当するものについて調べてみると、「家族がする」と感じたものが8.2%で最も多く、次いで「親類や近所の人」の12.9%となっている。

家族構成別にこれを見ると、夫婦もしくは、夫婦と子供のいわゆる近代型家族構成

の場合は、「親類や近所の人」に家事を依頼する率が、他の家族構成のものにくらべて比較的高いのであるが、この場合でも家族が家事をする率が、夫婦のみで家族で64.5%、夫婦と子供という家庭で73%であり、親類や近所の人に家事を依頼する率よりほるかに高い。

また、耳令階別に見ると、40 歳未満と40 歳以上について、明らかに異なった傾向がみられる。前記、子供がまだ小さく家事を負担出来ないう40 歳未満のものでは「家族がする」という答は75%前後で、「親類や近所の人」に依頼するといふ答は1%前後であるが、子供が家事の負担が出来な程度にまで成長した40 歳以上のものでは、「家族が家事を行う」場合が85%以上と高くなってゐるのに対して、「親類や近所の人」等家族外の人に依頼する率は1%前後という低率を示している。

(オ 30 表)

才五〇表

主婦が病気のとき家事を誰がやるか

(60)

家 族 の 型 別	主婦が病気のとき家事を誰がやるか	手配の人数	親類・知人	その他	不明
	計	人数	人数	人数	人数
近代的型	3,065 (100.0)	2,413 (78.7)	84 (2.7)	394 (12.2)	38 (1.2)
近代的型+子供	1,10 (100.0)	91 (84.5)	5 (4.5)	21 (19.1)	6 (5.5)
近代的型+親	2,354 (100.0)	1,828 (77.7)	69 (2.9)	335 (14.2)	31 (1.3)
近代的型+その他	320 (100.0)	280 (87.5)	8 (2.5)	18 (5.6)	0 (—)
近代的型+その他	91 (100.0)	82 (90.1)	1 (1.1)	5 (5.5)	0 (—)
近代的型+その他	108 (100.0)	102 (94.4)	0 (—)	3 (2.8)	0 (—)
不明	85 (100.0)	50 (58.8)	1 (1.2)	12 (14.1)	21 (24.7)
計	3,065 (100.0)	2,443 (78.7)	84 (2.7)	394 (12.2)	38 (1.2)
20才未満	9 (100.0)	4 (57.1)	0 (—)	1 (14.3)	0 (—)
20才～29	637 (100.0)	465 (73.0)	18 (2.8)	124 (19.5)	9 (1.4)
30～39	1,323 (100.0)	1,013 (76.6)	51 (3.8)	197 (14.9)	18 (1.4)
40～49	813 (100.0)	717 (88.2)	12 (1.5)	46 (5.7)	5 (0.6)

主婦の年収別	主婦が病気のとき家事を誰がやるか	手配の人数	親類・知人	その他	不明
	計	人数	人数	人数	人数
50～59	201 (100.0)	191 (85.1)	1 (0.5)	12 (6.0)	4 (2.0)
60才以上	16 (100.0)	15 (93.8)	0 (—)	1 (6.2)	0 (—)
不明	91 (100.0)	28 (39.5)	2 (2.8)	13 (18.3)	2 (2.8)

(2) 内は%

(2) 家事を底い人の担当

主婦が病気等の場合に手がわりとして家事手配い人を雇う際の担当について希望を調査した結果、「有料でよい」と答えた者は全体の 52.8%で、これを収入階別に見ると、当然のことながら収入が多くなるに伴い、「有料でよい」者が増加している。一方「無料ではなくては困る」という者は、全体の 12.7%で、これを収入階別に見ると、これも当然の結果として、収入が増加するに伴い減少しているが、月収3万円以上の世帯にあって「無料ではなくては困る」と答えているものが、少数ながらみられる。

次に「有料でよい」と答えたものについて担当額についてその希望を見ると、100円未満が 44.0%をしめて最も多く、ついで、100円以上、150円未満が 23.0%となっている。

(42)

150円以上でよいと答えた者は、僅か1.8%にすぎない。

(オ3/表、オ32表)

オ3/表 家賃手払い

先収入別	総数	有料でない	無料又は低額	わかりない	不明
計	3,032 (100.0)	1,814 (59.8)	386 (12.7)	497 (16.4)	335 (11.1)
10,000円以下	25 (100.0)	8 (32.0)	9 (36.0)	4 (16.0)	4 (16.0)
10,000 ~ 14,999	204 (100.0)	108 (52.9)	43 (21.1)	31 (15.2)	22 (10.8)
15,000 ~ 19,999	450 (100.0)	254 (56.4)	86 (19.1)	70 (15.8)	40 (8.9)
20,000 ~ 24,999	568 (100.0)	347 (61.1)	78 (13.7)	92 (16.2)	51 (9.0)
25,000 ~ 29,999	431 (100.0)	299 (69.4)	39 (9.0)	71 (16.5)	22 (5.1)
30,000 ~ 34,999	303 (100.0)	224 (73.9)	17 (5.6)	37 (12.2)	25 (8.3)
35,000 ~ 39,999	147 (100.0)	108 (73.5)	12 (8.2)	18 (12.2)	9 (6.1)
40,000円以上	159 (100.0)	125 (78.6)	7 (4.4)	18 (11.3)	9 (5.7)
不明	745 (100.0)	341 (45.8)	95 (12.8)	156 (20.9)	153 (20.5)

()内は00

オ32表 家賃手払い人々雇用場合の目安

先収入別	総数	200円まで	250円まで	200円以上	不明
計	1,814 (100.0)	1,166 (64.3)	430 (23.7)	191 (10.5)	24 (1.3)
10,000円以下	8 (100.0)	7 (87.5)	1 (12.5)	0 (-)	0 (-)
10,000 ~ 14,999	108 (100.0)	80 (74.2)	20 (18.5)	6 (5.6)	2 (1.9)
15,000 ~ 19,999	254 (100.0)	180 (70.9)	54 (21.2)	14 (5.3)	3 (1.2)
20,000 ~ 24,999	347 (100.0)	246 (70.9)	67 (19.3)	26 (7.5)	6 (1.7)
25,000 ~ 29,999	299 (100.0)	192 (64.2)	76 (25.4)	28 (9.4)	3 (1.0)
30,000 ~ 34,999	224 (100.0)	122 (54.4)	58 (25.9)	42 (18.7)	2 (0.9)
35,000 ~ 39,999	168 (100.0)	90 (53.3)	36 (33.3)	19 (11.6)	3 (1.8)
40,000円以上	125 (100.0)	53 (42.4)	39 (31.2)	30 (24.0)	2 (1.6)
不明	341 (100.0)	236 (69.2)	77 (22.6)	24 (7.0)	3 (0.9)

()内は%

(43)

(3) 家事手低いの人の勤務形態

家事手低いの人の勤務形態については、62.3%が通いの勤務形態を希望し、往はみえ希望するものは僅か9%である。

次に、勤務時間を見ると「ノ日中」という者が最も多く、全体の43.5%をしめ、「半日もしくは時間ぎめ」という短時間の勤務形態を希望する者は、27.8%である。勤務形態の希望については、家族構成の相異から来る著るしい差は見られない。

(オ33表)

オ33表 家事手低いの人の勤務形態の希望について

	総数	往はみえ ノ日中	通いの日中	通いの半日	時間ぎめ	わかばい	不明
計	3,032 (100.0)	274 (9.0)	1,046 (34.5)	331 (10.9)	514 (16.9)	493 (16.3)	377 (12.4)
近 代 型	夫婦	110 (100.0)	16 (14.5)	28 (25.4)	12 (10.9)	21 (19.1)	20 (18.2)
	夫婦＋子供	2322 (100.0)	198 (8.5)	842 (36.3)	272 (11.7)	393 (16.9)	356 (15.3)
近 代 型	夫婦＋親	320 (100.0)	34 (10.6)	100 (31.2)	29 (9.1)	54 (16.9)	61 (19.1)
	不明						

近代型＋その他	97 (100.0)	16 (17.6)	27 (27.6)	8 (8.8)	15 (16.5)	16 (17.6)	9 (9.9)
近代型＋親＋その他	107 (100.0)	8 (7.5)	35 (32.7)	4 (3.7)	19 (17.8)	24 (22.4)	17 (15.9)
不明	82 (100.0)	2 (2.4)	14 (17.1)	6 (7.3)	9 (11.0)	16 (19.5)	35 (42.7)

() 内は%

モデル地区における主婦の生活についての質問表

昭和 年 月 日記入

注意、あてはまる番に○印をつけ、また必要なところに数字その他の書きこんで下さい。

問Ⅰ あなたのことをおたずねします

1. おいくつですか 才

2. 最後に卒業した学校はどこですか

(1) 尋常小学 (2) 高等小学 (3) 新制中学 (4) 新制高校
(5) 旧制女学校 (6) 旧制専門学校又は新制大学以上

3. あなたは現金収入のある仕事をお持ちですか

(1) 勤めに出ている (月収税引 円) -
(2) 内職をもってゐる (月平均 円)
(3) 持っていない

問Ⅱ 御家族のことをたずねます

1. 御主人はどんな仕事をしていらっしゃいますか

(1) 現場 工員 役付 (月収税引 円)
(2) 事務 事務員 役付 (月収税引 円)

2. 一階にお住いの家族は何人ですか (あなたのほか) 人
下に家族のオのあなたとの続柄と年令を書いて下さい

例えば 夫 40 才 一長男 10 才

1. 才 才
2. 才 才
3. 才 才
4. 才 才

問Ⅲ 1. あなたのお宅は生活費を計画を立てて(予算を立てて)使っているか
ますか

(1) 立てている (2) 立てたり立てなかったり (3) 全然たてない

2 (1)と(2)の答の方におききますがどなたがたてますか

- (1) 夫と妻が相談して (2) 夫 (3) 妻 (4) 家族が相談して
(5) その他(誰がたててゐるかを書いて下さい) _____

問Ⅲ

1 家計表をつけていらっしゃるか

- (1) つけている (2) つけたりつけなかったり (3) 全然つけない

2 (1)と(2)の答の方におききますが、どのようにつけていらっしゃるのですか

- (1) 項目にわけてこまかくつけている
(2) 項目にわけないでお金の出し入れだけをつける
(3) 主なものだけをおぼえのためにつける

3

つけたあとを整理して後日の参考にしていきますか

- (1) している (2) そこまではやっていない

問Ⅳ

あなたは家計表のつけ方やお料理のつくり方、子供のしつけかたなど、家庭生活に関するこの話をきいたり、指導をうけることがありますか。

(婦人少年室がやっている場合をのぞきます)

- (1) ある {それはどんな機会ですどこが
主催するものでしょうか} _____
(2) ない _____

問Ⅴ

お宅には次のもののうちどれがありますか

- (1) ラジオ (2) ミシン (3) 電気釜 (4) テレビ
(5) 電気洗濯機 (6) 電気掃除機 (7) 冷蔵庫
(8) ガスまたは電気暖房器具(ストーブ、ヒーターなど)

問Ⅵ

あなたには次のどの団体(グループ)に入っていますか

- (1) 地域の婦人会 (2) 町内会婦人部 (3) 社宅主婦会
(4) 労組主婦会 (5) 生活協同組合 (6) 主婦連
(7) 婦人有権者同盟 (8) 友の会 (9) 未亡人団体
(10) 政党婦人部 (11) その他(名前を書いて下さい) _____

問Ⅲ

1 家事や育児は家庭にとつて大切な仕事ですが、このほか何かあなた自身の成長のための時間や仕事をもちたいと思いますか

- (1) 思う (2) 思わない (3) わからない

2 そのような時間や仕事を現在お持ちしていますか

- (1) 持っている (それとはどんなことですか) _____
(2) 持っていない

3 持たないと思つていても持てない方はどうしてですか

- (1) 家事が忙しいから (2) 子供が小さいから
(3) 家族の理解がないから (3) 仕事があるから
(5) その他(どんなことか書いて下さい) _____

問Ⅳ

1 あなたは毎月きめて読んでいる雑誌がありますか

- (1) ある (名前をかいして下さい) _____
(2) ない

2 あなたは雑誌以外の本を時には読みますか

- (1) よく読む (2) 時々読む
(3) 読むだけ時間が無い (4) 全く読まない

3 最近読んで本の名前を書いて下さい

問Ⅴ 社宅は事務関係(職員)の人と、現場関係(工員)の人とをわけているところが多いようですがこれをどう思いますか

- (1) わけた方がよい (2) 一緒の方がよい
(3) どちらでもよい (4) わからない

問Ⅵ 社宅に住んでいると便利なことあることあると思いますが、家主・同士の同じところ(同じ現場や同じ室)ではたらいっている最良がお隣同士になることはよいと思いますか

- (1) 隣り同士の方がよい (2) なるべく離れた方がよい
(2) どちらでもよい (4) わからない

問Ⅷ

あなたが病気などのとき家事は主に誰が代わりますか？

問Ⅷ

- (1) 家族がする (2) 親類や近所の人がきてしてくれる (3) 手配いの人を雇う (4) その他

1. 主婦が病気などで家事ができない場合、外国ではいろいろな機関（政府や民間団体）が安く家事手配い人を派遣する制度がありますが、もしそのようなことがあったらあなたは1日いくら位までなら人を雇ってもよいと思いますか？

- (1) 無料でなくともは困る (2) 200円位まで (3) 100円位まで (4) 200円以上でもよい (5) わからない (6) 150円位まで (7) わからない

2. その場合、次のうちどの方法で雇いたと思いますか？

- (1) 住込みで1日中 (2) 時間きめ (3) 通いで1日中 (4) 通いで半日 (5) わからない